

# 令和7年度 東京海洋大学基金 活動報告書

# 東京海洋大学基金

海洋、その先の未来へ  
皆様のご寄附が、海洋の未来を拓きます

## 学 長 挨拶

皆様には、常日頃より東京海洋大学に温かいご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

東京海洋大学では、「海を知り、海を守り、海を利用する」をモットーに、我が国の海洋立国としての発展を支える研究者や高度専門職業人の育成に取り組んでいます。その歴史において、平成23年に設置された「東京海洋大学基金」により、学生への修学支援をはじめ、教育研究や課外活動、さらに明治丸や雲鷹丸を中心としたミュージアム関連事業などを実施することができました。改めて、心から感謝申し上げます。

本学では、令和6年度から4学期制・105分授業を全学的に導入しました。この改革により、夏季休業期間を拡充するとともに、海外留学や中長期インターンシップなどの学外学修の充実や、拡大した授業時間を用いたアクティブ・ラーニングの導入など、多様な授業展開が可能となりました。

グローバル人材の育成については、全学生を対象とした交換留学制度、学部学生を対象とした「海外探検隊」、大学院生を中心とした「OCEANOUS Plusプログラム」や「METISプログラム」などを実施しています。短期派遣から単位互換を伴う長期留学まで、幅広い国際交流の機会を提供し、地球規模の課題解決に向けたグローバル教育を推進しています。

近年、重要性が高まっているAI・データサイエンス教育については、学部「リテラシーレベル」及び「応用基礎レベル」の科目、大学院では「海洋AI・データサイエンス学位プログラム」を設置し、基礎的なリテラシーの習得からAI・データサイエンスを高度に活用した博士研究まで、体系的な教育を実施しています。

起業による社会課題の解決を志す学生に対しては、海洋アントレプレナーシップ養成プログラムを提供し、起業に関する教育を行うとともに、ビジネスプラン・コンテストを実施しています。

本学は経済的に困窮する学生達だけでなく、積極的に学修に取り組み、未来を支える人材となることを目指す学生達も支援していきたいと思っています。そのためには、「東京海洋大学基金」を継続・発展させていくことは必要不可欠であると考えております。今後とも皆様方のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。



国立大学法人東京海洋大学長

井 関 俊 夫

## Message

### 特命理事・副学長（産学連携・イノベーション創出担当）からのメッセージ



特命理事 梶 小波

本学では、皆様からいただいたご寄附により、令和7年度も修学支援事業による学生への支援をはじめ、教育・研究、課外活動の支援や、明治丸や雲鷹丸を中心としたミュージアム関連事業等を実施することができました。

令和7年度に新たに設立した「大山孝勇研究奨励基金」では、本学において20年30年先の海洋の未来を担う研究課題を奨励する「大山研究奨励事業」、また、優れた若手研究者を奨励する「大山賞事業」を実施しています。令和7年度では、それぞれの事業において、研究課題1件の採択と若手研究者2名の表彰を行いました。

皆様からのご寄附に改めて感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

# 事業概要

東京海洋大学基金は、本学における教育研究、国際交流及び社会連携に関する活動等の推進を図るとともに、教育研究環境の整備充実に資することを目的としています。

## 東京海洋大学基金寄附メニュー

### A：一般基金

目的指定をせず、大学全体のために活用させていただいています。

### B：プロジェクト基金

目的を指定して、各プロジェクト活動の推進のために活用させていただいています。

- ▶ 大学プロジェクト（大学ビッグプロジェクト支援）
- ▶ 修学支援プロジェクト【修学支援事業基金】（税額控除対象）
- ▶ 研究等支援プロジェクト【研究等支援基金】（税額控除対象）
- ▶ グローバル教育支援プロジェクト
- ▶ 学部・研究科等プロジェクト
  - ◇海洋生命科学部 ◇海洋工学部 ◇海洋資源環境学部 ◇海洋科学技術研究科（大学院）
- ▶ 課外活動等プロジェクト
- ▶ その他特定事業プロジェクト
  - ◇明治丸海事ミュージアム事業
  - ◇マリンサイエンスミュージアム事業（雲鷹丸修復事業含む）
  - ◇附属図書館支援 ◇海洋生命科学部及び海洋資源環境学部学術研究奨励基金
  - ◇海洋AI・データサイエンス学位プログラム教育基金
  - ◇水圏科学フィールド教育研究センター保全支援基金
  - ◇海洋工学部国際交流基金 ◇本学練習船による海洋人材育成支援事業基金



寄附メニュー

# 収支報告

## 【令和7年度】

### 受入額

皆様からの温かいご支援により、多額のご寄付をいただきました。  
ご支援をいただきました皆様に、改めて深く感謝申し上げます。

**受入件数 393件**

**受入総額 98,413,350円**

| 寄附者区分 | 件数  | 寄附金額（円）    |
|-------|-----|------------|
| 法人・団体 | 37  | 83,284,000 |
| 個人    | 356 | 15,129,350 |
| 合計    | 393 | 98,413,350 |

### 基金支援事業支出報告

皆様方から賜りましたご寄附は、ご寄附の目的に沿って、各支援事業に活用させていただきます。

**支出総額 73,337,441円**

| 支援事業          | 執行額（円）     |
|---------------|------------|
| 学生の修学支援       | 15,968,890 |
| 教育研究環境の整備     | 26,160,251 |
| 学術資料の収集・管理等   | 21,683,789 |
| その他目的達成に必要な事項 | 9,524,511  |
| 合計            | 73,337,441 |

※令和7年度収支差額 25,075,909円については、次年度へ繰り越させていただきました。

# 主 な 活 動 報 告

## 学生の修学支援 支援額 約1,600万円

### 【修学支援事業】 60万円

修学支援事業とは、経済的理由によって授業料の納付が困難で、かつ学業優秀と認められる学生に、授業料相当の学費の一部を支援するための奨学金給付です。  
令和7年度は、6名の学生に支援することができました。

### 【物価高対策支援】 103万円

食料品価格高騰の影響を受けている学生への食費支援として、大学生協食堂で使用できる電子マネー（生協マネー）を406名に支給しました。

### 【学部・研究科等プロジェクト支援事業】 約1,460万円

#### ▶ 海洋生命科学部・海洋資源環境学部

サークル活動や海鷹祭の実施、また学生交流会といった課外活動や、海洋資源環境学部における海外派遣研修への支援などを行うことができました。

【支援額】 約290万円

#### ▶ 海洋工学部

サークル活動や海王祭の実施、成績優秀学生や課外活動団体の表彰などの支援を行うことができました。また、ジェネリックスキルの測定や育成状況の把握を目的としたPROGテスト（1、3年生対象）実施や、アカデミックな英語スキルの測定や育成状況の判断を目的としたVELCテスト（1年生対象）実施の支援も行うことができました。

【支援額】 約360万円

#### ▶ 三輪正人育英会奨学基金（海洋工学部）

学生・院生への奨学金として、学部生16名、大学院生7名に支援することができました。

【支援額】 810万円

## 教育研究環境の整備 支援額 約2,600万円

### 【練習船支援】 495万円

練習船海鷹丸の装備で、経年劣化のため使用できなくなっていた計量魚群探知機を換装し、実習等に使用できるように支援を行うことができました。



## 【大山孝勇研究奨励基金】 2,100万円

令和7年度から新たに「大山孝勇研究奨励基金」を設立し、本学において20年30年先の海洋の未来を担う研究課題を奨励する「大山研究奨励事業」、また、優れた若手研究者を奨励する「大山賞事業」を実施しています。令和7年度においては「大山研究奨励事業」で1件の研究課題を選出・研究資金を配分し、「大山賞事業」で2名の若手研究者を選出・表彰を行いました。

## 学術資料の収集・管理等 支援額 約2,200万円

### 【附属図書館支援】 約220万円

附属図書館では、基金により、教員の選定する専門性の高い資料、洋書、視聴覚資料を整備することができました。  
また、附属図書館越中島分館では、「大津皓平文庫」として引き続き、授業指定図書・シラバス掲載の教科書、教員の選定する専門性の高い資料、洋書などを整備し、蔵書内容を充実させることができました。



※附属図書館のこれまでの取組や今後の計画等について、  
詳細はぜひ基金のホームページをご覧ください。



### 【文化財支援】 約1,950万円

登録有形文化財「雲鷹丸」では定期保全修理工事に、また、重要文化財「明治丸」では修復及び維持管理のために使わせていただきました。

※重要文化財「明治丸」、「百周年記念資料館」、「明治丸記念館」の観覧については、明治丸海事ミュージアムのホームページをご覧ください。





### <修学支援事業>

この度は修学支援事業基金奨学金に採用していただき誠にありがとうございます。このような温かいご厚意に感謝するとともに、このご支援を無駄にすることのないよう学業に一層励み、成長で恩返しすることができるよう精進してまいります。

現在、日本を脅かしている物流問題についての解決に向けて学業に励んでおります。東京海洋大学のさらなる発展を祈り、学会に認めていただけるような卒業研究をできるよう精進します。また今後、私の後輩にあたる学生にも研究を伝えていけるような人物になるよう努力いたします。  
(海洋工学部3年生)

このたびは修学支援事業基金奨学金の採用を賜り、誠にありがとうございます。本奨学金は学費・教材費等の負担を軽減し、学業に専念するための大きな支えになります。いただいたご支援を励みに、日々の学修に真摯に取り組み、将来社会に還元できるよう努めます。

短期的には、海事・海洋分野の専門科目の基礎を着実に身につけ、学業に真摯に取り組んでいきます。長期的には、海洋・海事分野の技術を深めながら、技術と制度の両面から社会に貢献できる人材を目指します。将来は、知的財産の視点から新しい技術や挑戦を支える仕事にも携わりたいと考えています。  
(海洋工学部2年生)

この度は修学支援事業基金奨学金を給付していただき、誠にありがとうございます。現在一人暮らしをしており、費用がかかるため生活が厳しいですが、ご支援をいただけることで、アルバイトにおおわれず、安心して学業に専念することができます。

現在は、海洋環境について、物理・生物といった様々な視点から学んでいます。今後は氷河融解のメカニズムなど極域の環境問題について研究したいと考えています。大学院進学を検討しており、より専門的な知識を身に付け研究に励んでいきたいです。将来的には、地球規模で起きている環境問題の解決に貢献できるような人材となっていきたいです。また、自分自身も後進の支援ができるよう努めてまいります。  
(海洋資源環境学部2年生)

このたびは奨学金という多大なるご支援を賜り心より感謝申し上げます。皆様のご厚意により経済的な不安を軽減し、学業に専念できる環境をいただけたことを大変ありがたく感じております。

小学生の頃、親に連れられて行った東日本大震災の漁村のボランティアで、後継者不足、震災による打撃等を目にしたことで、一次産業の実情を意識するようになりました。この大学では水産についてより専門的に学ぶことができる上、様々な実習やフィールドワークを通して多角的な視点を養うことができます。めでたい場面でカニやタイを食べたり、秋にさんまを味わったりする日本の豊かな食文化を、将来にわたって支えていくため、いただいた支援を生活費や学業に活用し、この大学での学びに励みたいと考えています。  
(海洋生命科学部1年生)

この度は、修学支援事業基金奨学金に採用していただき、心より感謝申し上げます。皆様からの温かいご支援は、私と家族にとって大きな支えとなります。入学当初は「視野を広げたい」という思いが強く、NPO法人でのボランティア活動や地域活性化プロジェクトなど、学外の課外活動に多くの時間を割いてきました。しかし、活動に追われる日々の中で、一つ一つの経験を深く掘り下げたり、腰を据えて学問に向き合う時間が十分に確保できなかったという反省があります。この反省を活かし、2年次は活動の「量」よりも「質」を重視し、時間の使い方を抜本的に見直したいと思います。  
(海洋工学部1年生)

**支援をいただいた学生たちの声は、この他にも多数届いております。  
皆様のご支援のおかげで、多くの学生に手を差しのべることができました。**

## 寄附者からのメッセージ

皆様からは金銭的なご支援だけではなく直接いただく「お声」が東京海洋大学の活動、学生の励みとなっています。

◇頑張れ東京海洋大学！

◇学長がリーダーシップを発揮できるように、少しでも役に立てばと思います。

◇世界一の海洋国家日本を目指して！！応援してますよ！！

◇貴学の学生さんたちがたくさんのかたを学ぶことができるよう、陰ながら応援しております。

◇社会に役立つ人材を、送り出し続けてください。

◇微々たるものですが、先生方や学生の皆さんの研究のお役に立てれば幸いです。

◇日本の海洋資源に関係することなので、勉強している若者を応援します。

◇次世代エンジニアの育成、よろしくお願い致します。

◇研究環境の充実に役立てて頂きたいです。学生達が未来のリーダーとして活躍出来るよう応援します。

◇陸上養殖の簡易的な管理システム構築等、頑張ってください。

◇学部生は皆、わが孫と思って応援させていただきます。

◇学びの場をありがとうございます。

◇私どもの息子が大変お世話になりました。少しばかりですが在学生のみなさまの一助になればと思います。

◇海洋工学部創基150周年、誠におめでとうございます。貴部のさらなるご発展を祈念し、心ばかりですが寄附させていただきます。

◇越中島校舎男子トイレの和式から洋式への改修費用として活用ください。

◇海鷹丸の南極海航海を応援しています。乗組員さん、学生さんたちのご安航をお祈りしています。

◇微力ですが応援させていただきます。海洋大から国内および全世界の技術力の向上を願っております。

◇子供が海洋大に入学でき、充実した日々を送れていることに感謝しています。

◇父が御世話になりました。海洋大のますますの発展を希望します。

◇学生本人から学部での経験、学びについて興味深く伺っています。また、拓海を郵送頂きありがとうございます。ネット閲覧でないため、とても読みやすいです。

◇子供が週末グラウンドを使用させて頂いています。一助になればと思いささやかながら寄附させて頂きます。

◇昔商船大学に入学志望した者ですが、近眼のためはたせませんでした。学生の皆さん頑張ってください。

◇御校の卒業生ではありませんが、優秀な日本人海技者の育成、輩出に期待しております。

◇私の会社には多くの東京海洋大卒業生が勤務しています。これからも日本の海事産業に貢献する人材を育成して頂くことを期待しています。

◇明治丸ミュージアムすごかったです。

◇昨年度に引き続き今年も海洋大を応援します。海鷹祭はとても楽しかったです。マグロ丼は最高でした。全部回り切れなかったのでもう今年も行きます。

◇「実るほど頭を垂れる稲穂かな」を地で行くような校風で、大変親切にして頂きました。次第に応援したい気持ちになり、海洋大の研究が生み出す未来を想像してワクワクしています。



# ご寄附への謝意

寄附者の皆様に深い感謝の意を込めまして、ご希望いただきました方へは、以下のとおり本学から謝意を表します。

## ▶ 寄附者芳名録

ご芳名を本学ホームページに掲載し、末永く歴史に刻ませていただきます。

## ▶ 感謝状贈呈

寄附累計額が10万円以上の皆様に感謝状を贈呈いたします。

## ▶ 寄附者銘板への掲載

寄附累計額が30万円以上の皆様につきまして、寄附者銘板にご芳名を記し、顕彰させていただきます。

銘板は品川キャンパス(本部管理棟1階玄関ホール)と越中島キャンパス(1号館1階正面玄関ホール)に設置しております。



寄附者銘板（越中島キャンパス R 8.8現在）

## ▶ 「感謝の集い」にご招待

本学が平成23年に「東京海洋大学基金」を設立して以来、一定額（累計30万円）以上の寄附をいただいた方々をお招きして、直接謝意をお伝えする「感謝の集い」にご招待いたします。

お問い合わせ先

東京海洋大学  
総務部総務課  
基金渉外室

〒108-8477 東京都港区港南4-5-7  
TEL 03-5463-4279 FAX:03-5463-0359  
E-Mail:ef-kikin@o.kaiyodai.ac.jp  
URL:<https://www.kaiyodai.ac.jp/kikin/>



東京海洋大学基金